

# 令和3年度予算編成方針

総務部長

能美市においては、すべての施策が移住定住の促進につながるよう取り組んできた。能美東西連絡道路の整備や能美ふるさとミュージアムの建設など拠点整備も順調に進むほか、分譲を開始した福島グランパークへの進出表明など企業誘致も好調であり、これまでの施策が着実に実を結びつつある。しかしながら、昨今は新型コロナウイルス感染症の影響等により、人口は減少に転じていることに加え、公共施設・インフラ施設（以下「公共施設等」という。）の老朽化も顕在化してきている。伸びゆく能美市の勢いを次世代に繋げていくためには、本市の地域資源・公共施設等を効果的に活用するとともに、新しい情報技術も積極的に活用し、持続可能なまちづくりに努めていかなければならない。また、ソフト・ハードの両面において相乗効果が発揮できるよう、創意工夫を凝らした施策展開を図っていかなければならない。よって、令和3年度予算は、能美市誕生15年を経て、中長期的な視点に立ち、下記に定める方針により編成することとする。

## 1 基本方針

令和3年度当初予算については、令和3年2月26日の任期満了に伴う市長選挙を控えていることから、人件費、扶助費、公債費等の義務的経費、施設管理費等の経常経費を中心とする骨格予算として編成する。新規事業や政策判断を要する政策経費については、原則として6月補正予算において計上する。但し、国の経済対策等への対応、喫緊の課題への対応については、当初予算に計上する。なお、特別会計・企業会計については、原則として通年予算とする。

## 2 予算編成方針

### (1) 地域資源・公共施設等を効果的に活用

2023年に迎える加賀国立国・能美郡誕生1200年、北陸新幹線県内全線開業に向けて地域資源・公共施設等を効果的に活用するとともに、老朽化している公共施設等のあり方を検討し、持続可能なまちづくりに取り組む

### (2) 新しい情報技術の積極的な活用

コロナ禍における「新たな日常」を念頭に、従来の業務プロセスそのものの見直しを含め、AI・IoT等の新しい情報技術を積極的に活用し、誰もが安全安心・快適に暮らせる地域共生社会の実現並びに地域経済の振興と教育力の向上に取り組む

### (3) 5か年の活動の軸となり、持続可能な発展に寄与する事業の展開（3年目）

能美市誕生20周年以降の方向性を見据えながら、持続可能な発展に向けて将来展望を描く事業については、引き続き「チャレンジ能美2019-2023」に位置付ける。なお、コロナ禍で市税収入の減少と歳出の増加が見込まれることから、さらなる行財政改革に取り組む

## 3 予算規模の事前把握

年間の予算規模を事前に把握するため、当初予算の編成時期にあわせて、本格予算を想定した6月補正予算を要求することとする。なお、具体的な予算要求の方法等は、財政課長通知（予算編成要領）に定める。

以上